

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成19年9月6日(2007.9.6)

【公開番号】特開2006-35550(P2006-35550A)

【公開日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【年通号数】公開・登録公報2006-006

【出願番号】特願2004-216859(P2004-216859)

【国際特許分類】

B 4 1 J	2/44	(2006.01)
G 0 2 B	26/10	(2006.01)
H 0 4 N	1/23	(2006.01)
H 0 4 N	1/04	(2006.01)
H 0 4 N	1/113	(2006.01)

【F I】

B 4 1 J	3/00	M
G 0 2 B	26/10	A
G 0 2 B	26/10	B
G 0 2 B	26/10	1 0 4 Z
H 0 4 N	1/23	1 0 3 C
H 0 4 N	1/04	D
H 0 4 N	1/04	1 0 4 Z

【手続補正書】

【提出日】平成19年7月24日(2007.7.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

互いに異なる色のトナー像を形成する、複数の画像形成手段を有し、前記複数の画像形成手段で形成されるトナー像を用いてカラー画像を形成する画像形成装置であって、

前記複数の画像形成手段は、

潜像担持体と、

振動する偏向面によって光ビームを主走査方向の第1方向に走査する光ビームを照射して潜像を形成する潜像形成部と

を備えることを特徴とする画像形成装置。

【請求項2】

前記主走査方向における前記潜像担持体の一方端部にて前記潜像担持体を前記副走査方向に駆動する駆動手段を備え、

前記複数の潜像形成部は光ビームを前記潜像担持体の有効画像領域に対応する第1走査領域よりも広い第2走査領域で前記主走査方向に走査可能に構成され、

前記複数の画像形成手段は、前記主走査方向における前記潜像担持体の他方端部の前記第2走査領域内で、かつ前記第1走査領域を外れた位置を移動する走査光ビームを検出して信号を出力する検出部を備え、前記検出部から出力される検出信号に基づき潜像形成動作を制御する請求項1記載の画像形成装置。

【請求項3】

前記検出部からの出力信号に基づいて、光ビームのON/OFF制御を行う請求項2記

載の画像形成装置。

【請求項 4】

前記複数の画像形成手段は異なる色成分の潜像を形成するとともに、前記第1の方向を同じ方向とする請求項1記載の画像形成装置。

【請求項 5】

潜像担持体上に潜像を形成するとともに、互いに異なる色のトナーにより前記潜像を現像してトナー像を形成する、複数の画像形成手段を用いてカラー画像を形成する画像形成方法であって、

前記複数の画像形成手段は、振動する偏向面に光ビームを主走査方向の第1方向に照射して潜像を形成するとともに、前記潜像を現像してトナー像を形成する像形成工程と、

前記複数の画像形成手段により形成されたトナー像を用いてカラー画像を形成する転写工程と

を備えたことを特徴とする画像形成方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

この発明にかかる画像形成装置は、互いに異なる色のトナー像を形成する、複数の画像形成手段を有し、前記複数の画像形成手段で形成されるトナー像を用いてカラー画像を形成する画像形成装置であって、上記目的を達成するため、前記複数の画像形成手段は、潜像担持体と、振動する偏向面によって光ビームを主走査方向の第1方向に走査する光ビームを照射して潜像を形成する潜像形成部とを備えることを特徴としている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また、この発明にかかる画像形成方法は、潜像担持体上に潜像を形成するとともに、互いに異なる色のトナーにより前記潜像を現像してトナー像を形成する、複数の画像形成手段を用いてカラー画像を形成する画像形成方法であって、上記目的を達成するため、前記複数の画像形成手段は、振動する偏向面に光ビームを主走査方向の第1方向に照射して潜像を形成するとともに、前記潜像を現像してトナー像を形成する像形成工程と、前記複数の画像形成手段により形成されたトナー像を用いてカラー画像を形成する転写工程とを備えたことを特徴としている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

このように構成された発明（画像形成装置および方法）では、画像形成手段の各々において光源からの光ビームが振動する偏向面により偏向され、光ビームを主走査方向に往復走査させることが可能となっている。しかしながら、この発明では、主走査方向の第1方向に走査される光ビームが潜像担持体の有効画像領域に照射されて潜像が形成される。そして、該潜像が現像されてトナー像が形成される。このように第1方向に走査される光ビームを用いて画像形成を行っているため、画像の種類にかかわらず均一な濃度で画像を形成することができる。また、すべての画像形成手段について、光ビームの走査方向を第1

方向に統一しているため、各画像形成手段で形成されるトナー像の間においても、画像濃度を均一に保つことができる。